

報告事項 平成30年度 事業計画並びに予算

I 法人本部

1. 広報普及活動

- ・定期刊行物（いただきます）の発行 年4回
- ・ホームページ、フェイスブックページの運営

2. 研修活動

①第21回全国食事サービス活動セミナー（東京）

開催日：7月29日（日曜日）

会 場：ジョンソン・エンド・ジョンソン本社カフェテリア（千代田区西神田）

内 容：施策・制度動向、運営に関する技術向上、多世代交流の通いの場などの
グッドプラクティスの提示、団体間の関係づくりなど。

（団体リーダー、地域リーダー向け）

②第2回地域の居場所づくりサミット（東京）

開催日：5月30日（水）

会 場：キューピー本社ホール

内 容：主に子どもを対象とした食を通じた地域の居場所づくりに関する講座

③食事サービスを考えるつどい（東京食事サービス連絡会と共催）

開催日：12月9日（日）

会 場：飯田橋セントラルプラザ12階ホール

3. 活動審査・評価等

- ①明治安田生命保険「地域支え合い活動助成プログラム」審査
- ②みずほ教育福祉財団 電気自動車寄贈団体の推薦
- ③キューピーみらいたまご財団助成プログラムB「食を通じた居場所づくり支援」事務局

4. 制度政策に関する委員会等

- ①広がれボランティアの輪連絡会議構成団体（2018～）
- ②全社協等 「新地域支援構想会議」（石田・平野）
- ③広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー実行委員会 副代表（平野）

5. その他

- ①山形県の生活支援サービスの創出に向けた人材育成研修受託
- ①こども食堂、食育活動を行う団体への入会の働きかけを行い、会員拡大をはかる。
- ②寄付、物品提供の募集、大会への協賛協力の働きかけを団体企業等によりかけていく。

II プロジェクト

1. 「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー開催支援およびネットワーク推進事業」

(赤い羽根福祉基金助成・決定)

①「広がれ、こども食堂の輪！」推進委員会の開催

シンポジウム未開催地域での意識の共有、さらに開催を終えた地域での継続的なネットワーク支援を目的に、隣県も含めた関係機関と出会う場として推進委員会を開き、その中で小規模な学習会を開催する。東京で全国エリアの連絡組織が集う場を年 6 回程度開催する他、地方での開催(関西/四国/山陰/九州のいずれか)を年 1 回程度予定。「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー実行委員会を補佐し、連携しながら活動を推進する。

②テキストの作成・配布

テキスト編集チームにて訪問調査と資料収集を行い、こども食堂の理念やノウハウの普及を図るためのテキストを作成する。活動団体のニーズを踏まえてテキスト編集チームを中心に検討する。(例：要支援の子ども対応、連携の輪を広げる仲間づくり、こども食堂の推進に向けた課題等)作成したテキストは「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアーの開催地の他、都道府県市町村および同社会福祉協議会、全国民生委員民生委員を通じて単位民児協(1,200 支部)に郵送することで、こども食堂に関心を持ってもらい、普及を図る。

なお、印刷部数については調整中で、必要に応じて過去発行分を含めた増刷も併せて検討する。

③各地のシンポジウム開催支援(名称:「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー)

各地のシンポジウムは独立採算が基本となるが、必要に応じて各地の大会に対して講師派遣(旅費交通費)を支援する。また、「広がれ、こども食堂の輪！」全国ツアー実行委員会作成の公式ホームページ(各地のシンポジウム開催概要・スケジュール等を掲載)を通じて広報する。

④成果報告会の開催

3 か年の事業成果を振り返り、今後の課題を子ども支援関係者と共有する場として、成果報告会を開催する。

実施時期: 11~12 月頃、単日開催を予定

場所: 都内会場を予定(200 名程度)

⑤事務局の設置(相談窓口の開設)

職員 1 名および非常勤スタッフを雇用し、各地でのシンポジウム開催支援および連絡調整・相談対応、推進委員会や研修会の運営事務の他進捗管理を行う。

2. 「食の居場所を通じた多世代の健康づくり促進のための研修事業」

(厚生労働省健康局 地域の健康増進支援活動支援事業・決定)

低栄養予防の食生活指針 14 条にある「共食」の機会を地域の中に生み出し、孤立・孤食防止を含めた多世代の健康づくりを促進するための従事者養成を主たる目的とする。

具体的には、地域住民が主体で取り組む(地域食堂・こども食堂、コミュニティ・カフェ、会食会、サロン活動、居場所、乳幼児から高齢者までを対象とする食育活動)等の「食の居場所」推進に関わる団体および自治体等を対象に、研修会を行う。

研修会に参加した人が、安全に、継続して運営を続けるための情報を得ることでスキル向上と活動基盤強化を図り、さらに新たな担い手を各地で増やすことで、食を通じた多世代の健康づく

り推進に寄与したいと考える。

・研修会の内容（3地域、実行委員会形式での開催）

食べることを通じて参加の場をつくり、幅広いライフステージの健康支援につなげている事例を取り上げ、講義や分科会等を通して好事例を共有する。

さらに、希望者を対象に活動視察を実施することで、活動者やこれから始めたい人への具体的な情報提供を行う。

3. 「地域住民の社会参加活動等を基盤とした互助促進の手法に関する調査研究事業」

（厚生労働省老健局 老人保健健康増進等事業・申請中）

高齢者など地域住民のボランティア参加促進に向けて、多様な参加の仕方ができる活動を地域に創出・継続している先駆的な好事例をもとに、住民参加型の支えあいサービスにおける活動の評価指標を開発し、自治体や協議体、及びNPOなどが人材確保や多様な生活支援サービスの創出に向けて活用できるマニュアル作成を目的とする。

本事業では、生活支援サービスとして、移動、居場所、食事サービス（会食・配食）などに着目し、全国の各市町村が生活支援サービスのためにどのような支援枠組み・連携体制を図っているかについてアンケート調査を行う。アンケート調査による実態把握のもと、訪問調査を通じた好事例を収集し、移動・食支援（会食・配食・子ども食堂等）の発案・開設・発展に至るプロセスを明らかにする。さらにマニュアルとして取りまとめ、研修会により全国的な一層の普及を目指すことを目的とする。

4. 食支援活動に関する調査研究

（医療経済研究機構調査委託・決定）

高齢者に対する食支援活動の実態を調査し、その推進策の研究を行う。居宅における高齢者の介護予防、重度化予防の見地から「食」の問題が注目されている。「食」に対する意欲を喚起するためには、外食や共食が重要であると言われており、様々な食支援活動が行われている。しかしながらまだまだ十分なものとはなっていないことから、その実態を調査するとともにその推進方策を研究する。

5. こども食堂拠点整備応援プロジェクト

（三菱電機 SR 記念募金・決定）

①三菱電機 SR 記念募金を原資として、こども食堂を運営する団体（約25団体）を支援する。

子ども食堂＜継続運営＞費用への寄付…最大20万円×22～25団体

対象とする項目…施設の修繕・改修費用、備品の購入、食材、会場使用料、開催周知のためのチラシ作成費、ボランティア保険料など

②対象範囲（人数、施設数、エリア等）

全国のこども食堂活動団体のうち、拠点を持ち月2回以上こども食堂の活動を展開している・推薦状がある事等一定の基準を達成した活動団体へ寄付助成を行う※2。

【周知方法】ホームページ上での公募及び当法人のネットワーク団体や関係機関から継続支援につながる活動団体へ個別に声かけを行う。

6. 「こども食堂あんしん手帖」制作プロジェクト（継続中）

- ・こども食堂における食の安心安全を確保し、持続可能な運営に貢献するため、衛生、食物アレルギー、食育についての基礎知識や取り組み事例を盛り込んだ手引書を制作中。30年6月ころ発刊予定。

7. ケロッグ朝食提供支援プロジェクト

年2回、各回約80団体の食支援団体を通じてケロッグ社の寄付物品を配布する。

周知方法：ホームページ上での公募、当法人の会員メール、案内をFAX又は郵送、協力関係にある活動団体へ個別に声かけを行う。

対象：高齢者向け配食を行う40団体（1団体平均50名）

高齢者向け会食会・こども食堂を行う40団体

寄付物品：ケロッグコーンフレーク or 玄米フレーク 180g or フルーツグラノーラ 180g×200食